

2017 年度（平成 29 年度）

自己評価報告書

2018 年（平成 30 年）9 月 4 日

学校法人 東杜学園
国際マルチビジネス専門学校

目 次

1. 学校の現況	3
2. 評価の基本方針	6
3. 重点目標	7
4. 項目毎の記述	
(1) 教育理念・目標	9
(2) 学校運営	10
(3) 教育活動	11
(4) 学修成果	13
(5) 学生支援	14
(6) 教育環境	15
(7) 学生の受入れ募集	16
(8) 財務	17
(9) 法令等の遵守	18
(10) 社会貢献・地域貢献	19
(11) 国際交流	20

1. 学校の現況

(1) 設置者及び学校名

設置者	学校法人 東杜学園
学校名	国際マルチビジネス専門学校
代表者	理事長 野口 友子

(2) 所在地

〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央 4 丁目 8 番 32 号

(3) 沿革

1949 年 6 月	「宮城県経理友の会」会長 野口一郎（仙台商工会議所内に設置）
1951 年 4 月	東北経理実務学校創立 開校（設置者 野口会計受託株式会社） 「校章」「校訓～五常訓（健康・誠実・節約・信義・研鑽）」制定
1953 年 2 月	（学校設置者変更認可）財団法人 東北経理実務学園
1956 年 9 月	創立 5 周年記念式典「校旗」「校歌」制定
1961 年 4 月	創立 10 周年記念式典
1963 年 7 月	（学校法人変更認可）学校法人 東北経理実務学園
1971 年 9 月	創立 20 周年記念式典
1973 年 10 月	（校名変更認可）東北経理専門学校

- 1976年 3月 学校法人 東北経理学園 専修学校制度施行・昇格認可
- 1981年 10月 創立 30 周年記念式典
- 1991年 10月 創立 40 周年記念式典
- 1994年 3月 (校名変更認可) 東北情報経理専門学校
- 1997年 3月 新校舎落成
- 1997年 4月 (法人名・校名変更認可) 学校法人 東杜学園
国際マルチビジネス専門学校 開校

現在に至る

(4) 学科編成

①商業実務専門課程 昼間部 2年制

- ・ 国際観光学科
 - トラベル専攻
 - ユニバーサルツーリズム専攻
 - トラベル外国語専攻
- ・ 国際ホテル学科
 - ホテル専攻
 - 料飲サービス専攻
 - ホテル外国語専攻
- ・ ブライダルビジネス学科
 - ブライダル専攻
 - ブライダルスタイリスト専攻
 - 海外ウェディング専攻
- ・ 販売ビジネス学科
 - ショップビジネス専攻
 - ファッションビジネス専攻
 - ビジネス外国語専攻
- ・ 総合英語学科 (2017年度より新設)
- ・ 日本語ビジネス学科 (2017年度より新設)

②商業実務専門課程 昼間部 1年制

- ・ 国際観光学科 トラベルキャリア専攻
- ・ 国際ホテル学科 ホテルキャリア専攻
- ・ ブライダルビジネス学科 ブライダルキャリア専攻
- ・ 販売ビジネス学科 ビジネスキャリア専攻
- ・ 総合英語学科 英語キャリア専攻

(5) 学生数及び教職員数

在校生数	176名 (2017年4月1日現在)
教職員数	86名 (2017年4月1日現在)

(6) 学園理念

多様な価値観を理解し、多数の情報源を有する機動力と行動力を持った人材を育成し、国際・地域社会に貢献できる有益な人材を育成する

2. 評価の基本方針

- (1) 実践的な職業教育を行う教育機関としての責務、及び関係業界等のニーズに迅速且つ的確に対応し得る波及力、以上2つの視点について客観的な検証と評価を行う。

- (2) 評価については、定性的かつ定量的なデータを基に信頼性と妥当性のある結果の確保に努めるとともに、学園理念及び教育基本方針との照合を実施し、より質の高い職業教育が可能となるよう、学校運営の組織的かつ継続的な改善を図る。

- (3) 客観的且つ多面的な自己評価を実施することで、学校運営の更なる改善に努めることはもちろんのこと、実践的な職業教育の水準向上に努め、地域社会及び国際社会で活躍できる人材の育成を目指す。

3. 重点目標

(1) 重点項目

職業人前教育を担う教育機関としての専門学校的位置付け及び特色を意識し、時代を問わず社会より普遍的に求められる「専門性」・「社会性」・「人間性」の3点の育成を目指す。

上記を達成する上で、以下4点の支柱を明示する。

- ①学生の積極的な学修参加
- ②退学の防止
- ③就職率ならびに進路決定率の維持と向上
- ④外国語教育の拡充と留学生の受入れ体制の確立

(2) 取組状況・成果

①学生の積極的な学習参加

認定4学科全てにおいて、立案から実施までの工程を学生が担当する実習制度を導入している。社会人として必要とされる「課題発見能力」及び「課題解決能力」の育成を主眼とするのみならず、課題遂行上不可欠となる「コミュニケーション能力」の向上など、「社会性」を学修する場ともなっている。

②退学の防止

オープンキャンパス等において、専門学校の特長、教育理念、就職実績、そして学生納付金等について、細部に渡る説明を実施し、入学前のミスマッチの防止に努めている。

また、担任制の導入により、入学後に定期的な個人面談を実施。さらに、定期的な出欠率の確認と指導を徹底することで、学生の個別性の把握に努めている。

一方で、進路変更等が生じた場合は、休学及び転科を視野に入れた指導を実践することで、退学の防止に努めている。

③就職率ならびに進路決定率の維持と向上

求人数の増加、早期からのキャリア教育、そして就職支援担当ならびに各担任のきめ細かな指導が功を奏し、2017年度卒業生の就職率は、最終的に100%となった。

年々変化する時代のニーズに応えるべく、教育水準の維持と向上を目指しながら、関連業界へ良質の労働力を提供し続けることを今後も目標とする。

④外国語教育の拡充と留学生の受入れ体制の確立

年々深刻さを増す18歳人口の減少に加えて特出すべき事項の1つに、外国人留学生の増加がある。また、「語学力」を採用の絶対条件とする企業が増え続けている。社会に求められる人材の育成を担う教育機関として、外国語教育の拡充と外国人留学生の受入れ体制の確立は、より一層重要度を増している。

2016年度より外国人留学生の受入れを開始し、2017年度から「総合英語学科」及び「日本語ビジネス学科」を新設した。

(3) 今後の課題

①人間教育の更なる充実

日々刻々と変化する社会情勢の中で、若年者を取り巻く環境は大きな変化を遂げている。学習環境はもちろんのこと、他者との結びつきや家族関係においても、世代間で大きな違いが存在する。

しかしながら、いつの時代も求められる資質の1つに、「コミュニケーション能力」があげられる。自己表現力や傾聴力等の基礎的な能力はもちろんのこと、「ホスピタリティ精神」、そして躰に代表される「社会人としてのマナー」、これら2つの要素を習得でき得る人間教育の更なる充実は、今後も大きな課題となる。

②外国人留学生の学修及び生活指導のシステム構築

外国人留学生の受入れ及び教育にとって、「多言語化」、「日本語力」、そして「外部との連携」は重要な項目といえる。入学案内書やホームページの多言語化、日本語力向上のためのカリキュラム、そして日本語学校等との連携等が、今後も取り組むべき課題である。

4. 項目毎の記述

(1) 教育理念・目標

評価項目	自己点検 評価結果
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
学校における職業教育の特色は何か	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に 周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに 向けて方向づけられているか	4

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①課題

本学園では、昨年度より「専門性」、「社会性」、「人間性」、そして「国際性」の4大要素を基軸とした教育活動に注力している。

一方で、2017年5月に55年振りに学校教育法が一部改正され、実践的な職業教育を行う高等教育機関として「専門職大学」及び「専門職短期大学」の新学校種が制度化された。

このような時代の流れの中、本学園では今年度より「総合英語学科」及び「日本語ビジネス学科(留学生クラス)」を新設した。学校教育がより「実践的な職業教育」を重視する傾向にある中で、「国際性」を意識した教育活動を展開することは、近年急速に増え続ける留学生のニーズのみならず、「語学力」を重視する傾向にある関連業界のニーズに対しても応え得ることに繋がると考えられる。

今後は、多様化する学生の質、そして社会経済の変化に柔軟かつ的確に対応しながら、確固とした育成人材像を確立することが課題として挙げられる。

②今後の改善方策

「職業教育機関としての専門学校」という立ち位置を再度認識するとともに、常に時代のニーズに対応し得る将来構想を計画していくことが求められる。

(2) 学校運営

評価項目	自己点検 評価結果
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①課題

「学校法人東杜学園寄附行為」に基づき、本学園では理事会ならびに評議員会を開催し、学園運営を行っている。経営方針や事業計画は、評議員会に諮問、そして理事会で承認決定の上、運営方針を決定している。就業規則他諸規程については、適宜整備及び改定がなされ、学園全体で更なる向上を図っている。

一方、学生の入学、在籍、そして卒業までの学生情報管理については、その最適化と効率化を図るため、学生管理システムを導入している。しかしながら、学生情報の更なる多様化が見受けられるため、学生情報管理には今後も課題が残る。

②今後の改善方策

今年度新設の「総合英語学科」や「日本語ビジネス学科」など、学生情報はこれまで以上に拡がりを見せている。また、1年課程の需要が伸びていることもあり、今後多様化する学生情報の管理には、より一層業務の効率化及び最適化が求められる。

(3) 教育活動

評 価 項 目	自己点検 評価結果
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①課題

専修学校設置基準に則った教育課程の編成と授業時間の確保を前提として、毎年実施されている学科編成及び半期毎のカリキュラムの見直し等、業界のニーズや在校生の学修状況に合わせた的確な対応が、今年度も継続して実施されている。

また、2015年度設置の「教育課程編成委員会」を通して、企業委員からの提言を取り入れ、「業界が求める知識や技術の習得」を目標に、カリキュラムの作成と見直しを進めている。

授業評価については、年1回の実施を本年度も継続した。10項目で構成される質問紙と自由記述により、定量的かつ定性的なデータを収集し、各担当者へフィードバックを実施した。

資格取得等の指導体制については、通常授業のみならず、授業時間外の個別指導や長期休暇中の特別講座など、万全の態勢を整えている。

教職員及び講師については、年1回実施される講師会にて、本校の教育理念ならびに育成人材像が周知されているため、教科指導のみならず生活指導にも注力している。

しかしながら、学生の学習意欲の低下や受講者数の兼ね合いによるカリキュラムの変更、関連分野の企業との体系的な連携、そして職員の能力開発を目的とした定期的な研修、これら3点については、以前と比較して努力は重ねているものの、大きな課題が残る。

②今後の改善方策

現在、関連分野の企業や団体からのご協力を頂き、学生の専門的知識及び技術の習得を目的とした様々な連携が存在している。しかしながら、在校生の学修状況や受講者数、そして受入れ先の事情等により、調整を余儀なくされる事態が生じている。

また、関連分野に精通する教員及び講師の確保については、各企業における人手不足等の影響を少なからず受けており、特に企業派遣に至っては今後も更なる努力を要すると予想される。

これら2つの課題については、関連企業とのさらなる結びつきの強化はもちろんのこと、新卒採用実績を基盤とした関連企業の新規開拓も視野に入れ、改善を図ることが望まれる。

一方、職員の能力開発を目的とした研修については、前年度に比べて機会は増えたものの、未だ不定期での実施となっている。専修学校各種学校連合会主催の研修及びセミナー、そして各学科特有の能力開発を目的とした研修会等を中心として、積極的かつ計画的な実施を目指すことが今後も引き続き求められる。

(4) 学修成果

評価項目	自己点検 評価結果
就職率の向上が図られているか	4
資格取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①課題

昨年度より減少傾向を示している求人数の中、個別性を重視したきめ細やかな対応は、今年度も引き続き実践され、就職率は最終的に100%に達する結果となった。

資格取得については、通常授業はもちろんのこと、授業時間外での施設の開放、個別指導、そして土日祝日実施の講座等、昨年度同様に取得率の向上に努めている。

一方で、退学率の低減については、昨年度以上に大きな課題が残った。近年、学生の「モチベーション」が、資格試験受験者数の低迷に大きな影響を及ぼしている中、退学者においても「モチベーション」の問題は看過できない。その理由として、理想と現実のギャップから生じる「モチベーション」の低下がある。特に、合格難易度が高い国家試験等では、学習意欲の低下が将来の職業選択にまで影響を及ぼす事態が発生している。入学後に生じるギャップをどのように埋めていくかについては、今後も取り組むべき課題となっている。

また、依然として卒業生の追跡調査については、具体的な打開策に辿りついていないのが現状である。

②今後の改善方策

金銭的に修学が困難となる問題については、近年徐々に減少傾向にある。しかしながら、新たな問題として浮上した「モチベーション」の問題については、入学前後でのイメージの乖離をどのようにして解決するか、効果的なサポートを模索する必要がある。担任による定期的な個別相談、保護者との連携、そしてカリキュラムの充実等、より一層の強化が望まれる。

卒業生の追跡調査については、SNSを利用するなど、システム化に向けて中長期的な計画を立てる必要がある。

(5) 学生支援

評価項目	自己点検 評価結果
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生の支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	3

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①課題

少人数制、担任制、及びカウンセラーの常駐など、学生支援は引き続き十分な体制が整えられている。また、昨年度より導入された副担任制度は、多岐に渡る学生指導の一翼を担っている。

本校独自の奨学金制度、学費減免、そして分割納入制度といった経済的な支援体制については、近年増加する自力進学者等、経済的に修業困難な学生を対象に引き続き実施している。

年1回の健康診断による健康管理、そしてCEP等の課外活動に対する支援体制については、従来通りきめ細やかな対応がなされている。

保護者との連携についても、年1回の保護者会の他、個別での対応も実施することにより、学生、学校、そして保護者の三位一体の連携体制の強化は、今後も継続して進める。

しかしながら、高校・高等専修学校等との連携については、定期的な開催に至っていない。

②今後の改善方策

高等学校等から要望がある場合、積極的な対応を行ってきたものの、定期的な連携ではない。今後も引き続きニーズを探り、キャリア教育の一助となるべく対応を検討する必要がある。

(6) 教育環境

評価項目	自己点検 評価結果
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災に対する体制は整備されているか	3

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①課題

北朝鮮による米領グアム沖へのミサイル発射計画を受けて、学生の安全を最優先課題とした結果、今年度の1年次海外学科別研修は沖縄での実施となった。海外研修で得られるであろう知見や経験に見合う研修とするべく、宿泊施設のグレードアップや学科別研修の充実を図った。ブライダルビジネス学科海外ウェディング専攻のインターンシップについては、昨年度同様にワタベウェディングのご協力の元、更なる内容の充実をもって実施した。

また、今年度新設の総合英語学科では、国際性を意識した教育環境の開拓を目的として、カナダ、イギリス、オーストラリア、そしてアメリカの4ヶ国にて約4ヶ月間の海外留学を実施した。

さらに、CEPによる実務体験、そして夏期及び冬期休暇を利用したインターンシップ等、今年度も就業体験については十分な体制が整えられている。

一方、防災訓練計画については、北朝鮮によるミサイル問題を経て、防災時マニュアルの修正を行い、各学年学科単位での避難経路等の周知は実施できたものの、一律での避難訓練の実施には至っていない。

②今後の改善方策

防災体制については、見直しを図りつつ、定期的な実施を検討する必要がある。そのためには、入学オリエンテーション時、そして各学年学科単位での周知のみならず、全体での防災訓練を計画する必要がある。また、防災危機管理者の複数の配置、そして防災備品の整備等、学園全体としての意識向上についても、引き続き努めていくことが望まれる。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	自己点検 評価結果
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
学納金は妥当なものとなっているか	4

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①課題

本学園の基本情報、資格取得実績、及び就職状況については、本年度も引き続き公正かつ誠実に行われている。留学生対象の学外ガイダンスについても、今年度も引き続き参加した。

また、次年度よりAO入試の導入が予定されており、学習意欲の高い学生の入学が見込まれ、受入れ体制の更なる強化が求められている。

授業料をはじめとする学納金は、教育内容や地域水準を踏まえ、引き続き妥当な金額である。

しかしながら、入学者数の減少が続いていることから、公正ではあるものの適正であるかについては疑問が残る。本学園の教育理念や教育成果が正しく伝達されているのかも含め、学生募集活動に抜本的見直しが必要であると考えられる。

②今後の改善方策

公正かつ誠実な学生募集活動を展開しているにもかかわらず、軒並み学生数が減少している背景には、SNSの爆発的な普及等に端を発する世代観の変化があると予想される。今年度の入学者の中には、本学園のオープンキャンパスに1度も参加することなく進路を決定したケースが複数見受けられた。その一方で、オープンキャンパスの質そのもので早期に意思決定を済ませた入学者も存在していた。このことから、SNSを駆使した効果的な情報提供、そしてオープンキャンパスにおける本学園職員と入学希望者との密接なコミュニケーションが、現在の学生募集活動を適正に行う上で不可欠であると示唆される。

(8) 財務

評価項目	自己点検 評価結果
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①課題

学校運営に関わる予算については、年に2回実施される評議員会の諮問及び報告を経て、年度予算等の財務状況を確認し、理事会の承認を得て決定している。

学校財務情報については、資金収支計算書、消費収支計算書、そして貸借対照表をホームページ上に公開している。今年度からは、前述した会計基準改正内容を受け、資金収支計算書、事業活動収支計算書、及び貸借対照表に情報公開の内容を変更した。収入予算の細かな予測、そして支出の状況把握を行い、安定した財務基盤の維持に努めている。

少子化等の影響を受け、学生数減の状況の中、財務は以前に増して綿密な調整がなされている。今後、より教育の質を担保し、満足度の高い学校づくりを目指すことが課題として挙げられる。

②今後の改善方策

社会のニーズに合わせた学生募集、退学防止、そして留学生の受入れ体制の強化等、安定した収入基盤確保のための具体的な方策は、今年度も継続して必要とされる。

(9) 法令等の遵守

評 価 項 目	自己点検 評価結果
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①課題

本学園では、年度手続毎に法令及び専修学校設置基準を遵守し、適正な学校運営を行っている。個人情報については、個人情報保護規程を整備し、職員へ就業規則と共に周知し、適切な運用を行っている。また、マイナンバーについては、管理責任者を定め、着任及び退職時に適切な取り扱いを実践している。

入学案内書等に掲載する際の在校生及び卒業生の個人情報の取り扱いについては、趣旨を説明の上、承諾書を受け取り、適正な処理が施されている。

自己評価については、2015年度に自己評価委員会を設置し、本学園のホームページに結果を掲載している。今後も、各項目の改善点について対策を進めることが求められる。

②今後の改善方策

2015年度に設置された学校関係者評価委員会より評価をいただき、学校運営にあたっての情報公開と改善について、継続的に取り組むものとする。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	自己点検 評価結果
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	2

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①課題

各種検定試験、国家試験、そして入学試験等、本年度も引き続き受験会場として教室の貸出を行っている。特に、レストランサービス技能検定学科試験、そしてサービス介助士講座については、学生の専門的知識及び技能の習得に留まらず、社会貢献の面においてもその責務を果たしていると考えられる。

また、従来 of 献血活動や地域清掃に加えて、今年度は「ジャパンウォーク in sendaiーオリンピック・パラリンピアと歩こう 2017 春」、「金蛇水神社祭典神輿行列」、そして「フォトウェディング」にそれぞれ参加した。震災復興イベントへの参加についても、引き続き推奨している。

一方、地域に対する公開講座や教育訓練の受託等については、今年度も実施がない。

②今後の改善方策

職業教育としての専門学校のみならず、地域社会に向けた広義での教育機関として、その位置付けを再度検討することが求められる。知識と技術を地域社会へ還元する公開講座や、本校設置の各学科による地域貢献といったように、専門学校としての位置付けを柔軟に捉えていくことが今後の改善策と考えられる。

(11) 国際交流

評価項目	自己点検 評価結果
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	3
留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4
留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	3
学修成果が国内外で評価される取組を行っているか	3

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①課題

今年度より、「総合英語学科」及び「日本語ビジネス学科（留学生クラス）」を新設した。総合英語学科では、カナダ、イギリス、オーストラリア、そしてアメリカの4ヶ国にて約4ヶ月間の海外留学を実施した。日本語ビジネス学科においては、通常授業の他に1泊2日での東京研修旅行を実施した。双方ともに、「国際的視野の習得」という目標を持ちながら、プロトコルを学ぶ最良の機会となった。

また、昨年度から日本人クラスへの受入れを開始した留学生においては、国際観光学科にベトナムからの留学生が在籍している。当該留学生は、外国人留学生奨学生に選ばれるだけでなく、国家資格取得を果たしている。

今年度新設の2学科は、国際交流という観点においても、また社会が求めるニーズという観点においても、今後ますますその重要性が増すものと予想される。更なる体制の強化に努めていくことが、課題として挙げられる。

②今後の改善方策

国際性を意識した体制の強化において、今後も引き続き求められるものとして、専任教員の拡充、そして就業先の確保がある。各種セミナーの参加はもちろんのこと、受入れ先企業の開拓等、継続的に取り組むものとする。